

## 地方都市にこそ、アーバンフォレストを!

事業委員長 野上 一志



「活力ある都市樹木と人材を育み、アーバンフォレストを生み出す」という協会ビジョンのもと、会員の皆様には事業委員会で企画・開催している様々な事業にご理解、ご協力いただき、心より感謝申し上げます。事業委員会でも試行錯誤しながら「アーバンフォレスト」の社会的認知と理解を広める努力を続けておりますが、現状ではまだ会員や一部の業界関係者に留まっています。

一方で昨年は、街路樹や並木に関するニュースが社会を賑わせた年でもありました。大手中古車販売会社による街路樹の不法伐採や、明治神宮外苑再開発に伴う歴史的並木の保護運動など、これらの事例は問題の本質こそ異なりますが、街路樹が抱える根本的な課題を浮き彫りにし、都市樹木の保護の在り方を問う重要な出来事でした。また、茨城県石岡市には「道路植栽は要らない会」という団体があり、その団体の発行物を読むと、道路植栽のプラス面とマイナス面を列記し、比較した結論として、道路植栽は一切やめてその予算を社会福祉や少子化対策に回し、植栽地は自転車専用道路や無料駐停車スペースとして活用するほうがよいと断じています。

日本にアーバンフォレストは根付くのかという疑問を抱きつつ、フランスやアメリカでの事例を視察し、ドイツでは十分な容量の植栽基盤や樹木保護範囲規定などの存在を知るにつれ、欧米のような架空線も無く歩道も広い街路が少ない日本には、日本独自の工夫が必要であることを再認識させられました。

これまで日本でも「無剪定街路樹」や「緑陰道路プロジェクト」など、街路樹のボリュームを出そうとする取り組みが立ち上がっては消えてきましたが、アーバンフォレスト戦略の導入は、すでに過密となってしまった東京などの大都市では難易度が高いことは明らかです。まずは地方都市での導入が現実的であり、ハードルも比較的低いのではないのでしょうか。

先日、事業委員会の優良事例見学会で視察した仙台市はその先駆けとなっています。私も日本海側の地方都市在住者ですが、日本の地方都市はすべて人口減少という縮小社会に直面しています。しかし、各地域には独自の魅力があり、地方自治体は他都市との差別化を図りつつ、関係人口を増やしインバウンドを呼び込むために奮闘しています。仙台市では、車道を歩道に改修し街路樹の空間を確保することでアーバンフォレストを創出し、その価値を理解した店舗が通り沿いに出店するというエリアマネジメントに成功しています。

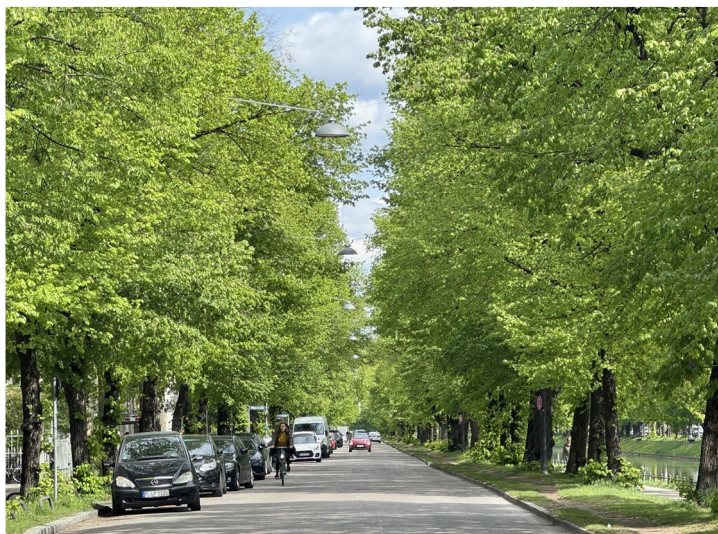
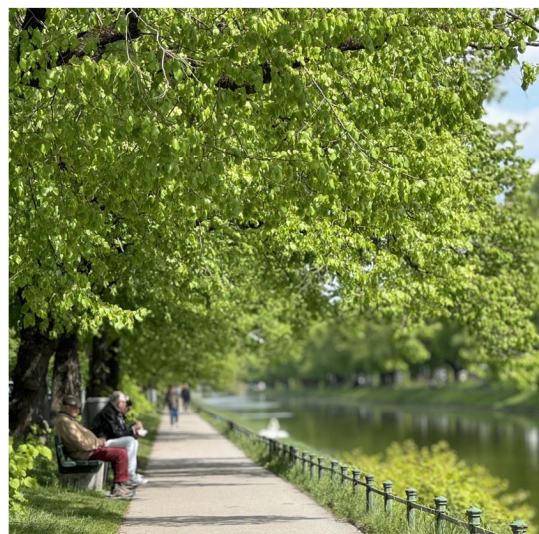
いずれにしても、持続可能なアーバンフォレストを実現するためには、市民、特に沿道に住む住人を巻き込み、自分たちの住む都市環境の改善に貢献しているという実感を持ってもらうことが必要です。詳細はドイツ視察報告会にてご報告いたしますが、

セシル・コニネダイク博士の提唱する「3:30:300ルール」のような市民目線で分かりやすい概念を広めることも、都市全体のバランスを考え、アーバンフォレストという理想を追求する上で重要な手段になると考えています。



より環境に優しく、より健康的な都市のための 3:30:300 ルールの視覚的表現 (UNECE2022)  
(BAUMZEITUNG・Jahrbuch der Baumpflege 2024, p80図1に加筆)

## ミュンヘンのアーバンフォレスト



(2024年4月 野上一志 撮影)

## 25周年記念誌発刊を終えて

副会長・広報委員会副委員長  
笠松 滋久



2023年末ようやく、「街路樹診断協会25周年記念誌 ～健全な都市樹木が豊かな都市環境を創る～」を発刊できてほっとしています。

もともとは20周年記念誌を作成すべく、2019年10月に開催された定時社員総会で予算の承認を得ていました。しかし、この年の5月に協会設立20周年記念事業として「世界のアーバンフォレスト政策と樹木マネジメント」を開催し、その後処理と報告書等の作成に追われるなどしたため、なかなか20周年記念誌の作成に着手できませんでした。

また、今後10年のビジョン策定や委員会の再編への取り組み、そして、東京都のマニュアル改定(令和3年度版)や街路樹診断士認定講習テキストの改訂(第3版)などの大きな企画が舞い込み、記念誌作成は後回しとならざるを得ませんでした。そのうえ、新型コロナウイルスによる

パンデミックがとどめを刺し、2020年には20周年記念誌の発行を延期する判断がなされました。

このような紆余曲折を経て完成したのが25周年記念誌です。長い時間をかけて作成されただけあって、手前味噌ではありますが良い記念誌ができたと思っています。

記念誌の編纂・発行の目的は、街路樹診断を日本に導入した経緯や発展の記録を残すことを第一としました。街路樹診断協会では多くの研究や調査、診断技術の確立と普及、それに伴う講習会や講演会の開催など、数多くの取り組みが会員の熱意と努力によりなされてきました。しかし、それらの取り組み履歴が包括的に示されたものがなく、創業期に携わった皆様が現役引退を迎える年頃になった今、記録をまとめておかねば造園や都市緑化の歴史の中で埋没してしまうとの危機感がありました。

記念誌の作成にあたっては、広報委員のみならず多くの皆様に協力をいただきました。事務局には過去の記録を整理して一覧表(年表)の作成と、創業以来の役員や委員の名簿も探し出させていただきました。当時はデータ化されず紙ベースでの記録も多くある中で大変な作業であったと思われます。各章の執筆は、資格認定制度、保険制度、診断機器の変遷、技術開発の取り組み、国際シンポジウム、組織体制や支部活動などに携わってこられた会員にお願いしました。

そして、これまでご支援ご協力をいただいた行政関係者、研究者、関連団体などの多くの皆様からご祝辞

### 【記念誌 編纂・発行の目的】

#### (1)アーカイブとして

25年にわたる記録。創立以来の記録をまとめた資料として。

#### (2)国内における街路樹診断の変遷と歴史を正確に記録して残す

間違った診断の広まりを抑止し、正しい診断の普及を図る。

#### (3)次世代への継承(会員の誇りと熱意の継続)

日本になかった診断を開発し普及してきた熱意と努力と技術の継承。

#### (4)会員およびステークホルダーに当協会活動の認知を広める

記念誌を通じて当協会の認知や取り組み内容の周知を図る。

もいただき、とても充実した内容になりました。

広報委員会からもさまざまなアイデアが出され、過去を振り返る座談会に加え、未来を語る若手座談会も開催され「未来への提言」として記録に残しました。若手座談会では10年後20年後の社会の変化を予測し、都市樹木にどのような役割が求められ、どのような課題が生じるかの議論がなされました。過去記録のアーカイブだけでなく未来について語り合えたことは、今後の街路樹診断協会の方向性を探るうえで参考になるものでした。10年後20年後に読み返してみたい内容です。

さて、このようにして完成した25周年記念誌ですが、配布した関係者からも嬉しい賛辞をいただきました。「創業期の出来事を懐かしく思うとともに、ここまで発展してこられたことに敬意を表します」「一緒に取り組んできたことを光栄に思います」といった言葉が寄せられています。

25周年記念誌はアーカイブとしてだけでなく、協会活動の認知を広げる活動のツールとしても活用できるものと考えています。会員の皆様には、ぜひ25周年記念誌を主要な関係者にお渡しし、今後の協力者の発掘や事業の拡大につながるように活用していただければと願っています。



# 街路樹診断マニュアル改定後の動き ～工事配慮エリアの背景とその影響～

副会長 山下 得男

## 1. はじめに

『令和3年度街路樹診断等マニュアル』は、2020年(令和2年)7月に東京都から「街路樹診断マニュアル改定のための調査委託」が公示され、当協会が一般競争入札で受注して出来上がりました。改定版マニュアルで特筆すべきことは、街路樹周辺で工事を行う場合の配慮事項として「工事配慮エリア」を定義してマニュアルに記載したことです。当稿では工事配慮エリアの背景とその影響について記します。

## 2. 工事配慮エリアの背景

公示時に配布された特記仕様書にはマニュアル改定事項の検討として「⑥根の保護の事例案収集」が項目立てされていました。その理由は、街路樹診断で健全と判定されたにも関わらず、歩道上の工事等による根の切断が原因で倒木するケースが発生しているとして、それを防ぐためには根の保護が求められることを注意喚起する必要があるとしていました。このことは、東京都は諸外国で定められている樹木の根系保護基準について意識し、何らかの指針を示したいとの意志があったことの表れです。

東京都の一部の工事事務所では、独自ルールで自費工事等に対し掘削時の根の保護を工事実施者に求めています。委託業務で収集した事例としては、第三建設事務所では、高木近傍を掘削する場合、高木幹表面から掘削先端部まで1.0m以内を協議対象とし、縁石ブロックを含め植樹内を掘削する場合は、全て街路樹担当と協議としていました。また、中野通りや中杉通りなど特に配慮すべき路線では、距離に関係なく歩道掘削の全てを協議対象としています。第四建設事務所では、街路樹近傍で掘削を行う場合、高木の幹から原則2m以上離すように指導していて、離隔確保が困難な場合、幹周辺1m以内の掘削は人力施工を求めています。また、太根(主根)が出てきた場合は、切断前の根の状況を写真撮影し、再協議を行うこととしています。

委託業務で収集した有識者意見として、CRZの定義は国や自治体で考え方や事情が異なるとし、緑化技術者が建設工事等に意見を言える余地作りから始めるべきとありました。

これらの意見を踏まえて、ガイドラインの方向性は、根の保護の注意事項を規定するとし、知見を収集してブラッシュアップを図るとありました。このような経緯で出来上がったのが工事配慮エリアです。

## 3. 工事配慮エリアの影響

根の保護については、独自ルールによる工事実施前の協議を行っていた管理者(工事事務所)はありましたが、工事配慮エリアが定められる以前の緑化技術者の関与は、よくて工事中の立会いであり、関与しないことがほとんどでした。工事配慮エリアがマニュアルに記載されたことで、工事計画段階と設計段階での関与が見られるようになりました。

筆者が関与した事例としては、電線共同溝設計における試掘調査と電気ケーブル撤去工事前の試掘調査があります。工事配慮エリアが定められる以前に行っていた緑化技術者の立会いは、樹木保護の観点から意味はありますが、工事中に切断の必要がある支持根を切らずに保全させる立場にはありませんでした。工事配慮エリアが定められ、根の保護について配慮事項が示されたことにより、以前の立場と変わったのは、根系は樹木の生存に必要なものであり、それを保護するためにできること(工事配慮エリアを避けた線形の設定やダメージを与えない処置方法等)を意見することができたことです。

このように、東京都が狙った根の保護の注意喚起は明らかにできています。

## 4. 今後の課題

試掘調査により得られた知見で報告書を作成します。その中で悩ましいのが「どこまでの根の太さは切ってもよいのか」の判断です。また、太根を保全しながらの埋設管敷設や根の保全の具体的方法の知見が国内にほとんどありません。

諸外国で条例又は仕様書として定められているような「樹木保護基準」の日本版策定が必要と考えます。

## 海外情報

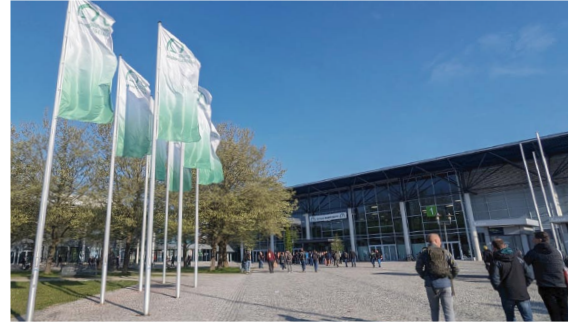
Deutsche Baumpflegetage in Augsburg/ German Tree Care Days 2024  
ドイツ Tree Care Days 2024 に参加して

永石 憲道 (理事・JR東日本コンサルタンツ株式会社)

## はじめに

2024年4月23日から25日の3日間、ドイツツリーケアデイズ 2024 (Baumpflegetage 2024) に参加させていただきました。

日本は5月の連休を前にした陽気の頃、ドイツでは朝から小雪が散り日中コートが手放せない異常気象の中、アウグスブルグの中心から離れた展示場、場違いにごった返す受付、そこに現地視察の任を帯びて4名(当内、堤、野上、永石)参上。



ドイツツリーケアデイズ (Baumpflegetage / German Tree Care Days) は、30年近く前に主にドイツ語圏の学識、コンサルタント分野の専門家が木の手入れの最新知見について、相互に意見を交わす研究会として始まり、10年ほど前に施工管理、安全管理、ツリークライミングの実務分野との合同開催となり、ドイツでは最大級の樹木管理技術講習会となった催しで、重ねた歴史の分だけ重みがあります。

開催代表は“ドイツの Shigo” Prof. Dr. Dujesiefken (名誉教授職)、Mr. Amtage (樹木医事務所経営) の2名。会議は技術フォーラムとツリークライミングフォーラムの2つを近接会場で並行し、3日間通して行うというものでした。

会期中、60以上の講演を交互に行き来して視聴できる学会口頭発表形式、2つの会議場の合間の屋内・屋外では、ワルトレーベン、電子カルテシステム、RESIやアーボにクライミングロープから、数十台のクレーンまで、160社以上の出展による機資材展示が行われていました。ドイツ版樹木医の技術継続教育にも関係しているためか、これらの合計参加者は37カ国から3200人以上との発表がありました。私感としては、日に1000人というのはかなり控えめで、会議合間の休憩時間に見学するドイツ人の熱気は日本における同様展示会の倍以上、日に1500人近く来場していたように思えました。

## 講演概要

- 1日目：気候変動における樹木の生物学
- 2日目：樹木の保護と樹木の保全
- 3日目：樹木管理と樹木の検査

## 技術フォーラム (約500名収容の会場)



技術フォーラム会場

重機展示

## 〔講演〕

話題提供という形で約 60 の講演が行われました。ドイツ国外からは10名ほどが招かれ、その中には昨年の ISA の大会で講演した Prof. Dr. Konijnendijk と Mrs. Moldestad も。2人は今、世界各国で講演をしている有名人ですが、講演テーマは ISA 大会と同じで、それぞれ「3+30+300 T(h)rees Rule」と「The Roots 根の分類 (樹種判別方法)」でした。



〔話題提供・ディスカッション〕

都市部の樹木が直面している課題が議論され、熱、干ばつ、建設現場への対応のための実践的な解決策、科学的知見など、法的解釈、現状の規制批判も交えて、忌憚のない議論がされていました。

〔機材系の報告〕

Mr. Detter 「引張試験を用いた樹木の安全性評価」

日本とほぼ同じ時期にスタートを切ったドイツでの引張試験は、30年余りにわたりデータを蓄積しており、データの解釈方法と管理面での活用、樹木安全性評価基準化 (DIN規格での動き)、またその試験の限界点など、幅広く詳細に説明されていた点が印象的でした。演者自身が引張試験を実施している動画が紹介され、氏の実務的な側面も理解できました。

ドイツ国内ではすでに機器診断の新たな一手として現場運用の中でのデータが蓄積されていますが、気候の異なる日本では更に緻密な記録を実施し、より多くの微細気象データと比較することで予測精度を増せるかもしれないと感じさせるものでした。



ツリークライミングフォーラム (実務家向け) (約350名収容の会場)

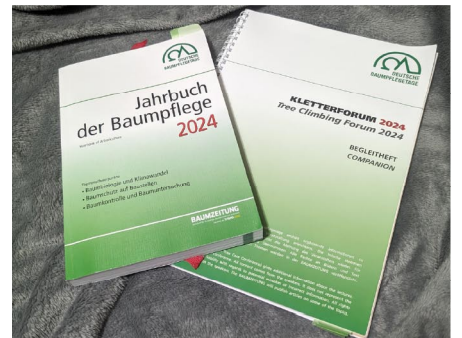
講師自身による実践的なデモンストレーションを交えたクライミングの最新技術から、ロンドンのキュー植物園などのような歴史的な樹木の保存についてまで幅広く議論されました。

特に前者、先のMr.Detterによる、ロープのアンカーポイントでの分枝角度によるリスク(クライミング時に折れる可能性評価)では、両側にクライミングできるモック足場が組まれた演台を最大活用し右、左のみならず、上に下にと動きまわる講演に、参加者も興奮気味で、実習の雰囲気似た室内講演の方法を見ることができました。



出版物

各年の大会要覧が、技術フォーラム (Jahrbuch der Baumpflege 2024)、ツリークライミングフォーラム (Kletterforum 2024) で個別に発行されており、バックナンバーも販売されていたほか、ドイツ国内での関連書籍(月間の造園管理系雑誌、設計系雑誌、新しい業界規格・基準の書籍)も販売されていました。



まとめ

ドイツツリーケアデイズ2024は、木の手入れに関する最新の知識と情報を学べる貴重な機会でした。このイベントは、専門家、実務家にとって、最新のトレンドと各種の開発について学べるプラットフォームのようです。

会議では、様々な観点から樹木問題が提起されて、対策が検討され、樹木保全の重要性と関係者間の相互理解の必要性が強調されていました。

#### 余談・通訳状況

現場ではイヤホンによる同時通訳サービスが提供されました。英語⇄ドイツの相互通訳がなされましたが、即時的で、ほぼズレはないようでした。私は、もっぱらGoogleのリアルタイム通訳に任せっきりでしたが、充分、オリジナルの言語から文意を捉えることができました。

## ドイツの樹木医 (Arboristin) 事情

樹木医は都市樹木の専門家。樹木の手入れは、交通安全の向上や事故リスクの軽減のため、交通路や住宅地の樹木、天然記念物などに対して、円滑な育成のための特別な措置が含まれる場合に限定して実施され、資格認証を受けた樹木医が実施することが多い。

公園、交通緑地、都市林などの都市や地域社会の緑地の計画、施工、維持には公園局や自然保護局などの樹木医も責任を負う。

樹木医は、独立して働いたり、認定された専門家や鑑定士として雇用されたり、ガーデニングや造園、苗木生産、庭園や木の手入れなどの分野でも職に就いている。当局や会社が大きくなるほど、責任分野はより専門化する傾向がある。

樹木医は、認証機関から認証を受けるために、関連する教育機関で学び、研究機関で培われた知識を活用する必要があり、行政機関や団体は、樹木医の専門知識を活かして、都市緑地の管理や政策決定を行っている。

樹木医は、認証機関、教育機関、研究機関、行政機関・団体と密接な関係の中で、高い専門性を発揮しながら、都市緑化の発展に貢献することが期待されている。

## ドイツの樹木医と関連する組織

### 認証機関

European Arboricultural Council (EAC)

International Society of Arboriculture (ISA)

Fachagrarwirt Baumpflege und Baumsanierung

樹木医の技術基準を保証し、Baumpfleger (樹木の管理人＝樹木医)を認証。トレーニングには樹木の生物学やロープクライミングの技術も含まれる。

### 教育機関

応用科学芸術大学 (HAWK) ゲッティンゲン校

2003年より、ドイツ語圏では唯一、都市部にある樹木群および個々樹木の保護、手入れ、持続可能な開発をテーマとした樹木学Arboristikの学士号 (GFB) - 樹木の手入れと保護、保存に関する認定農業専門家 (プロフェッショナルツリーケア学士号) 取得コースがある。

### 研究機関

FLL (景観開発・景観構築研究会)

日本のJISにあたるDIN規格の園芸および造園に関する一部の専門規格を策定する非営利自主運営の非政府組織。樹木管理も専門分野の一つ。

FGSV (道路交通研究会)

道路および交通システム全体の技術規制を作成し、技術知識をさらに発展させることを使命とした非営利技術科学協会。樹木が道路環境に与える影響に関する研究をしている。

### 行政機関・団体

DST (ドイツ都市協会)

ドイツの都市自治体幹部による全国連合組織で、都市緑地の管理に関する政策決定に関わっている。

GALK (ドイツ庭園事務所管理者会議)

都市緑地委員会を通じてDSTの任務を支援する緑地管理組織。樹木医の仕事内容と密接に関わっている。



## ゼゼカラ樹木医

浅井 浩司(関西支部/浅井造園)

書店で見かけられたり、もうすでに読まれたりした方もあると思います。

2024年本屋大賞を受賞した宮島未奈著『成瀬は天下を取りに行く』とその続編『成瀬は信じた道に行く』はまさに私の生まれ育った滋賀県大津市の膳所(ぜぜ)という町が舞台で、その町に生まれ育った女の子の物語です。

始まりは今から約3、4年前という非常に近い過去の話で、地方の数少ない賑わいの中心であった百貨店の閉店。その中継をするローカルテレビ局、主人公が進学する高校とその学校が持つ背景まで、ほぼ実在します。強烈な個性の持ち主で滋賀愛が強く、その町で自分がやりたいと思ったことを迷わず全部やっていく。言ってしまうと「地方あるある」をいっぱい詰め込んだ内容です。読みはじめ「なーんだ」というくらい平凡なストーリーは、Twitter(X)を通じた別の男性のストーリーに切替わり、彼女の人生と少し関わる。すると自分自身の原体験に重なり、そこからはほぼノンフィクションで物語に入っていました。

自分自身にとって平凡と感じたくらい、見慣れた出来事、街並みや公園といった景色は、この小説の中に自分自身が登場する錯覚を覚え、すごく色鮮やかで、魅力ある街に見えてくる不思議な体験をした。

地元では映画化でも決まったかのように聖地巡礼が始まっている。「やっぱりそうなるのね!」的に。そしてこの小説のスピノフでゼゼカラ樹木医、街路樹診断士の話を書き加えても自然だったりもする。



## 日田市街路樹診断

三宮 洋(九州支部/三宮造園株式会社)

大分県北西部、福岡県、熊本県の県境に日田市があります。熊本県の阿蘇山を九州のおへそに例えるなら心臓の位置ぐらいでしょうか。福岡市内まで高速バスも30分に1本運行しており、大分県の会員曰く、「日田市は福岡です」と言うぐらい福岡に近く、また温泉もあり、食べ物も美味しく、遊びに行くには丁度良い距離です。

その日田市で今年も街路樹診断を行いました。日田市の街路樹診断は、平成24年の日田市街路樹倒伏事故以来、平成24年、平成28年、平成29年、平成30年、令和4年と今回で6回目です。日田市には街路樹診断の必要性を認めていただき、継続的に発注していただいています。



日田市は地理的に支部会員が車で集まりやすいため、平成24年の診断から現在まで九州支部の内部研修会も兼ねて行っています。

そして、前事務局からの「公私問わず支部会員が集まるときは、宴会場を確保せよ」との教えを忠実に守り引き継いで、診断後は、今回も美味しい料理、美味しい

お酒で話も弾みました。

すばらしい仲間と一緒に頂く料理、お酒は格別ですね。街路樹診断協会の皆さま、今後ともよろしく  
お願いいたします。

## eスポーツを通じて

藤本 洋介 (関東支部/株式会社エコル)

eスポーツという言葉が流行り始めた2018年、当時学生だった私は「パワフルプロ野球」(=通称「パワプロ」)という野球ゲームのオンライン対戦に熱中していました。はじめはオンラインで画面の向こうの顔も知らない相手との対戦を楽しんでいましたが、2018年冬にパワプロを使ったeスポーツのプロリーグが開催されたことをきっかけに状況が大きく変わりました。

対戦の腕前に多少自信のあった私はプロ選手を目指す予選に出場し好成績を残すもリーグ開催1年目は惜しくも落選、2年目の予選で東日本1位の成績を残し念願のプロ選手に選ばれました。プロリーグの試合は会場で観客もいる中で行われるため、これまではオンライン上でのニックネームしか知らなかった画面の向こうの人間と顔を合わせて試合をしたり、試合前にチームメイトの家に集まって練習をしたりすることで交流が広がり、全国各地にゲームや野球が好きな趣味の合う友人ができました。

その後2020年を最後にプロリーグは休止してしまいましたが、今でもゲームをきっかけに知り合った友人とは交流が続いています。ネットで一緒にゲームを楽しむだけでなく、野球観戦のために台湾まで旅行に行ったり、夏はバーベキューをしたりとゲームの枠を越えた交流が続いています。

中でも「野球ゲームだけでなくリアルな野球も楽しむ!」という目的で野球ゲームを通じて知り合った友人と立ち上げたゲームプレイヤーのための草野球チームは、今年で発足6年目を迎え、所属メンバーも20人以上と盛んな活動が続いています。野球ゲームをきっかけに始めた草野球という新たな趣味が、今では私にとって週末の一番の楽しみになっています。



2024年2月 旭川で開催されたeスポーツ大会に参加し徐々に優勝



野球ゲーム好きの集まる草野球チーム

## 各委員会の活動報告 (2024年1月～6月)

## 事業委員会

委員長：野上一志 副委員長：當内匡、吉岡威  
委員：宇田川健太郎、本山圭一郎、安田卓宏

事業委員会では、定例会議を月に一度オンラインにて開催しており、年度事業計画の各項目について担当別に遂行しながら、全体協議が必要な事項について方向性の確認と調整を行っております。

6月16日には、名城大学で開催された日本造園学会において「工事における既存樹木の保全のあり方」をテーマとしたミニフォーラムを主宰し、今後の樹木保護範囲基準の策定に向けた足掛かりとなりました。

また、8月2日には、EAC(欧州アーボリカルチャー協議会)事務局長の老川順子氏にお越しいただき、ヨーロッパで急速に進んでいるスポンジシティの取り組みや樹冠被覆率の拡大についての講演会を予定しております。

## 〔活動内容〕

- 2月 1日(木) 第2回事業委員会(オンライン)
- 3月22日(金) 第3回事業委員会(オンライン)
- 4月18日(木) 第4回事業委員会(オンライン)
- 4月18日(木) アーバンフォレストを掘り下げるwebセミナー#6(アメリカのアーバンフォレスト視察とISAカンファレンスの報告会)
- 5月24日(金) 第2回アーバンフォレスト優良事例見学会(仙台市青葉通・定禅寺通)
- 5月29日(水) 第5回事業委員会(オンライン)

## 技術委員会

委員長：石井匡志  
委員：小島和夫、高田恵一、服部雅樹、堀内大樹

技術委員会では地方自治体における街路樹診断の状況について委員同士の意見交換をし、街路樹診断を普及させる方策や実態把握シートを検討しました。

「切断された根系直径と発根量の関係および太根切断箇所の処置方法に関する研究」については、4月に、古川庭樹園様(大阪府南河内郡河南町)の協力を得て昨年実験区を設置したシラカシとクスノキを対象に、切断後の発根量に関して根系調査を行い、関西支部からの参加もありました。調査結果は今年の樹木医学会に発表の予定です。また、積極的に発根させるための切断面の処理方法について議論を深め、新しい実験を計画しています。

## 〔活動内容〕

- 2月28日(水) 技術委員会(オンライン)
- 3月27日(水) 技術委員会(オンライン)
- 4月22日(月)・23日(火) 古川庭樹園圃場(大阪府南河内郡河南町)にて根系調査
- 5月15日(水) 技術委員会(オンライン)
- 6月12日(水) (株)富士植木長浦圃場(千葉県袖ヶ浦市)にて根系調査実験区の設定

## 広報委員会

委員長：萱森雄一郎 副委員長：笠松滋久  
委員：向山直宏、伊東麗子、石田浩之、吉田敦

ホームページの運用では、ホームページリニューアル直後(2020年11月)のページ閲覧数839件、ユーザー数79件に対し、2024年(令和6年)4月末時点でそれぞれ6,169件、980件となりました(最高時は、それぞれ10,402件、1,013件)。年度末時期(1～3月)におけるアクセス数は、昨年度までは5,000件程でしたが、今年度は3,000件前後に落ち込む状況でした。

継続的な技術提供の発信は閲覧数やユーザー数の維持、増加に不可欠です。また、倒木事故発生時には協会ホームページへのアクセス数が増加する傾向にあり、ホームページは、社会が求める正確な情報が提供されている場としての役割を果たす必要もあります。

そのため、委員会内で営業広報および技術提供のチームを編成して、ホームページリニューアルも視野に入れながら広報活動に関する意見交換を開始しています。

## 〔活動内容〕

- 定例会(オンライン)開催:全5回(2/13, 3/19, 4/16, 5/21, 6/24)
- 会報(GAISHIN NEWS)の発行:第16号(2024/1/1)
- 東京都造園緑化業協会広報部との連携(4/16)
- 25周年記念誌をホームページ上にて段階的に公開を予定
- ツリードクター(日本樹木医会)広告掲載予定

## 街路樹診断士認定委員会

委員長:有賀 一郎 副委員長:山下 得男  
委員:坂元 博明、三宮 洋、水野 優

街路樹診断士認定委員会は街路樹診断士の新規認定と更新認定を行っています。両者は基本的には同じ仕組みで進めています。

新規認定も更新認定も認定までの流れは次のとおりです。①新規・更新認定講習実施の通知、②募集、③申請書の提出、④申請書の審査、⑤オンライン・オンデマンド講習と試験、⑥審査、⑦合否通知です。新規認定のみオンライン・オンデマンド講習後、各支部で実施する実地研修・試験と審査を経て、合否通知を行っています。

昨年度、「街路樹診断士認定講習テキスト改訂特別委員会」を立ち上げテキストの改訂を行い、テキストの改訂に伴いオンライン講習の動画も改編しました。

新テキスト発行後の昨年の夏期(7-8月)に行われた新規認定からは、新テキストと新講習動画を使用しました。昨年12月から今年1月に実施した更新認定も新テキストを使用しました。また年度末と重なる更新認定のオンライン講習は、前倒しで冬休みに行えるように改善しました。

## 〔活動内容〕

- 1月15日(月) 令和5年度 街路樹診断士更新認定 オンライン・オンデマンド講習・試験  
(2023年12月12日に開始)【12動画全視聴 計8時間】終了
- 1月15日(月) 令和5年度 街路樹診断士更新認定 申請書受付締め切り
- 3月 6日(水) 街路樹診断士認定委員会  
(その後、数回の更新申請審査メール会議、審査結果確認・再提出検討)
- 3月21(木)～26日(火) 合否通知
- 4月 1日(月) 令和5年度 街路樹診断士更新認定 認定書発行
- 6月28日(金) 第14回 街路樹診断士新規認定 募集開始



## 【オンライン講習 cookieについて】

オンライン講習では主にログイン情報と講義動画視聴を中断した場合の再開地点の記録保存のため、cookieを使用しています。スムーズに講習を進めるために、次のことにご注意ください。

①cookieを拒否または消去する設定になっているデバイスおよびブラウザでの受講はしないでください。

※会社のデバイスはセキュリティのためcookieを拒否または消去する設定になっている可能性があります。受講を開始する前にご確認ください。

②講義動画視聴を中断時の再開地点はデバイスに記録されています。継続させるためには、一つの講義動画は同じデバイスおよびブラウザで視聴を続けてください。

## 関東支部

支部連絡会議開催に向けて準備中。

## 関西支部

### 【研修事業】

日本樹木医会兵庫県支部会員向けの危険木診断業務についての研修を実施しました。兵庫県内でも倒木事故をきっかけに、診断ノウハウを身につけたいという兵庫県支部のご希望に応え実施したものです。受講者は兵庫県支部会員を中心に24名でした。

日 時：2月3日(土) 9時～15時

場 所：兵庫県立甲山森林公園

〔内容・講師〕

- ①街路樹診断協会の取り組みについて～グリーンインフラとしての街路樹を目指して(理事 當内匡)
- ②街路樹診断業務の歴史と課題 (副会長 笠松滋久)
- ③最新診断マニュアルの解説 (関東支部 河原典生)
- ④屋外で実際の樹木を対象に診断業務の実施方法について講習 (関西支部:水野優、中島洋一、堀内大樹、石田浩之)

### 【その他】

各自治体へのPR活動を実施中です。手法、活動のトレースなどについて、定期的に会議を開催し検討しています。

## 九州支部

### 【研修会】

第15期 九州支部内部研修会(台湾開催)

日 時：6月27日(木) 9:00～17:00

場 所：台中市(台湾)

講 義：2023年上野動物園クスノキ移植事例 山下得男(副会長)

国指定天然記念物・藤崎台のクスノキ群について 松本雄介(九州支部)

東南植物楽園 李堅と樹木治療 樋口純一郎、大城裕治(九州支部)

他 台湾からの講師による講義

参加者：九州支部から17名、本部より3名の参加。シンポジウム申し込み数は298名

### 【支部幹事会】

第二回支部幹事会(オンライン)

日 時：2月1日(木) 16:00～18:00

### 【診断事業】

(1)2023年度 福岡市街路樹詳細診断業務

発注者：一般社団法人 福岡県樹木医会

件 名：令和5年度 街路樹調査業務委託における機器調査業務

期 間：2月～3月

業務概要：機器調査(貫入抵抗測定)9断面、機器調査(弾性波測定)6断面

(2)日田市 街路樹診断業務

発注者：日田市土木課

件 名：令和5年度 街路樹診断業務

期 間：2月～3月

業務概要：外観診断 150本、詳細診断 27断面

**(3) 日田市 亀山公園土壌分析調査業務**

発注者：日田市都市整備課

件名：亀山公園土壌分析調査業務

期間：3月

業務概要：土壌分析調査 一式

**(4) 虹の松原線 樹木診断業務**

発注者：朝日テクノ株式会社

件名：令和5年度 虹の松原線道路橋りょう保全委託(松原診断)

期間：3月～6月

業務概要：予備診断 1200本、外観診断 120本

**【広報活動】**

(公社)福岡県造園業協会機関紙「エバーグリーン」リレー掲載 2024年1月 53号

「第31回 都市における樹木との共生」 柿本雅子

**本部****【常任理事会】**

第15期 第2回常任理事会

日時：2月9日(金) 15:00～18:00

場所：街路樹診断協会事務局(東京都港区高輪3-4-1)

リアル・リモートハイブリット開催

**【今後の予定】**

- ・ 15期 第3回理事会 2024年7月
- ・ 16期 第1回常任理事会 2024年9月
- ・ 16期 第1回理事会 2024年10月
- ・ 第16回定時社員総会 2024年10月

**■編集後記**

このたび広報委員会のメンバーに加えていただきました。天龍造園建設(株)の吉田と申します。私は普段、都内の公園整備現場で働いています。例年、猛暑の夏場はいつも憂鬱ですが、今年は春～初夏の気候もどこかおかしく感じます。だらだらと続く長雨で土工事はストップ、春一番というにはあまりに多い連日の強風で移植木の葉は萎れてしまいました。最近の天気予報で、大雨・強風・波浪・濃霧・雷に注意とあり、思わず苦笑しました。日本の気候は亜熱帯に移行しつつあるというニュースを思い出します。人間はエアコンの効いた部屋に逃げ込んだり、ぼやいたりできますが、樹木は過酷な環境下でも移動ができず、訴えることもできません。植物の健全な成長を助け、緑豊かで快適な都市環境を実現する。緑化業界に課せられたミッションは明確ですが難しい。だからこそ、生き物を慈しむ心と技術、協力が欠かせないのだと思います。今後ともよろしく願い致します。(吉田)

**一般社団法人 街路樹診断協会****関西支部**〒550-0002 大阪府大阪市西区江戸堀1-8-14 (株)日比谷アメニス内  
TEL・FAX:06-6444-3990**九州支部**〒808-0124 福岡県北九州市若松区大字安屋900番地11  
一般社団法人 北九州緑化協会内  
TEL・FAX:093-741-0022**北陸連絡事務所**〒939-8253 富山県富山市新保271 (株)野上緑化内  
TEL:076-429-1310 FAX:076-429-4374**台湾連絡事務所**一般社団法人 街路樹診断協会 台湾籌備處  
台北市大安區四維路176巷2號1樓  
TEL:+886 02-2325-6911